

復刻版

華北交通社員会

『興亞』

1939～1944

—占領地北京の日本語雑誌

監修・解題—神谷 昌史・戸塚 麻子

原本提供—中国国家図書館ほか

造 本—B5、A5（別巻のみ）・並製・総約2,650頁

揃 価—148,000円（配本毎別巻分売可）

【第一回配本】2022年10月 配本揃価42,000円 ISBN978-4-910363-76-9

- ・第一巻(344頁)17,000円
『興亞』1～7号(華北交通社員会、1939年7月～1940年1月)
- ・第二巻(330頁)17,000円
『興亞』8～14号(同上、1940年2月～1940年8月)
- ・別巻(約202頁)8,000円(別巻のみ分売可) ISBN978-4-910363-84-4
*解題、総目次細目
『華北交通 昭和十七年版』(華北交通、1941年)
『華北交通たより』(華北交通、1942年)

【第二回配本】2023年2月 配本揃価46,000円 ISBN978-4-910363-77-6

- ・第三巻(302頁)16,000円
『興亞』15～21号(華北交通社員会、1940年9月～1941年3月)
- ・第四巻(288頁)15,000円
『興亞』22～28号(同上、1941年4月～1941年10月)
- ・第五巻(266頁)15,000円
『興亞』29～35号(同上、1941年11月～1942年5月)

【第三回配本】2023年8月 配本揃価30,000円 ISBN978-4-910363-78-3

- ・第六巻(232頁)14,000円
『興亞』36～42号(華北交通社員会、1942年6月～1942年12月)
- ・第七巻(240頁)16,000円
『興亞』43～49号(同上、1943年1月～1943年7月)

【第四回配本】2024年2月 配本揃価30,000円 ISBN978-4-910363-79-0

- ・第八巻(240頁)16,000円
『興亞』50～56号(華北交通社員会、1943年8月～1944年2月)
- ・第九巻(222頁)14,000円
『興亞』57～63号(同上、1944年3月～1944年9月)

Kanazawa Bunkokaku
金沢文圃閣
〒920-0867 金沢市長土塀2-16-30
Tel 076-261-8884 Fax 233-3111

□書店様へ…ありがとうございます
直接小圃までお申し込みください

日本占領下の中国社会における
日本人と中国人の
共存のあり方が
模索された
歴史的実践を
今に伝える。



類縁書のご案内

戸塚麻子 監修・解題
『燕京文学』1939～44年
—占領地北京日本語文芸雑誌
【全4巻+別冊】

A5判 並製 総1,310頁 ¥65,000
2021年刊【復刻版】

阿莉塔 編・解題
『蒙疆文学』1942～44年
—蒙疆文芸懇話会機関誌
【全5+別巻】

A5判 糸上製函/並製(別巻のみ) 総1,680頁
¥99,000 2018～19年刊【編集復刻版】

小林昌樹 編・解題
『東亜新報』関係資料集
—日本占領下華北の日本語新聞とジャーナリスト
【全2+別巻2】

A5/B6判 糸上製函/並製 総622頁 ¥50,000
2019～20年刊【復刻版/新組】

本書は中国図書館の協力により初めて全貌が明らかとなる。
日中戦争・太平洋戦争の真ただ中において、北京をはじめとする華北地域という最前線で発行され続けていた『興亞』（「華北交通」社員会）を集成。



華北交通社員会
『興亞』
1939～1944
—占領地北京の日本語雑誌

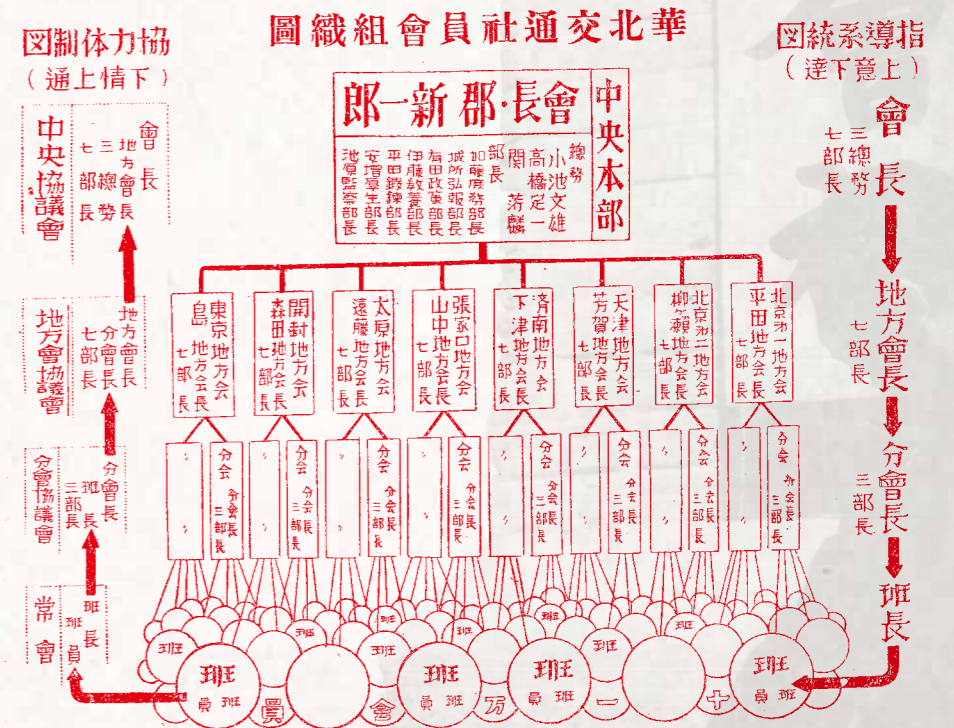


全九巻
+別巻

編・解題
神谷 昌史・戸塚 麻子

華北交通という多くの社員を抱える 巨大な国策会社、しかも戦時下・ 占領下の華北に在住の社員および 家族が大半という特殊な状況下の 「社内誌」＝『興亜』

日中戦争勃発後、多くの日本人が華北に移住し、中国人と生活空間を共有していた。8年に亘る占領統治期に「華北」に住んでいた日本人は約40万人であったが、「華北交通」の日本人社員は最も多かった1942年に3万8000人に達しており、当時の華北の在留邦人を代表する存在だった。加えて華北交通は日本人と多くの中国人が共同で働く職場であった。



「華北交通」の前身ともいえる 南満洲鉄道(満鉄)で弘報部門を担った 加藤新吉／城所英一／ 八木沼丈夫／石原秋朗(石原巖徹)らは 「華北交通」創設とともに同社に異動。 満鉄での経験を「発展」。



加藤新吉
 1896年福岡県生。1920年明治大学卒、満鉄入社。1929年総裁室情報課弘報係主任。1932～34年満鉄社員雑誌『協和』編集人、1939年満鉄から華北交通に派遣、資業局次長。戦後は福岡県三奈木村長。

加藤新吉
 1896年福岡県生。1920年明治大学卒、満鉄入社。1929年総裁室情報課弘報係主任。1932～34年満鉄社員雑誌『協和』編集人、1939年満鉄から華北交通に派遣、資業局次長。戦後は福岡県三奈木村長。



城所英一
 1901年福岡県生。1908年大連移住、1919年旅順中学卒、早稲田大学商学部入学。29年満鉄、満鉄社員編集長。同人誌『満洲短歌』主宰。加藤のあとを受け『協和』編集を34年から36年まで。満鉄北支事務局刊行グラフ誌『北支画刊』編集人。1939年華北交通創立と同時に異動。弘報主幹(課長)、44年済南鉄路局愛路部長。

城所英一
 1901年福岡県生。1908年大連移住、1919年旅順中学卒、早稲田大学商学部入学。29年満鉄、満鉄社員編集長。同人誌『満洲短歌』主宰。加藤のあとを受け『協和』編集を34年から36年まで。満鉄北支事務局刊行グラフ誌『北支画刊』編集人。1939年華北交通創立と同時に異動。弘報主幹(課長)、44年済南鉄路局愛路部長。

八木沼丈夫

1895年福島県生。磐城中学中退し、独学。1920年満洲日報、1929年満鉄、1932年関東軍嘱託。1939年華北交通に異動。1929年歌誌『満洲短歌』創刊、1941年同誌は歌誌統合で『短歌精神』、『短歌中原』創刊。1944年北京で逝去。満洲等の宣撫工作起源は1932年八木沼を班長として発足した宣撫班にあるとされる。

石原秋朗(巖徹)

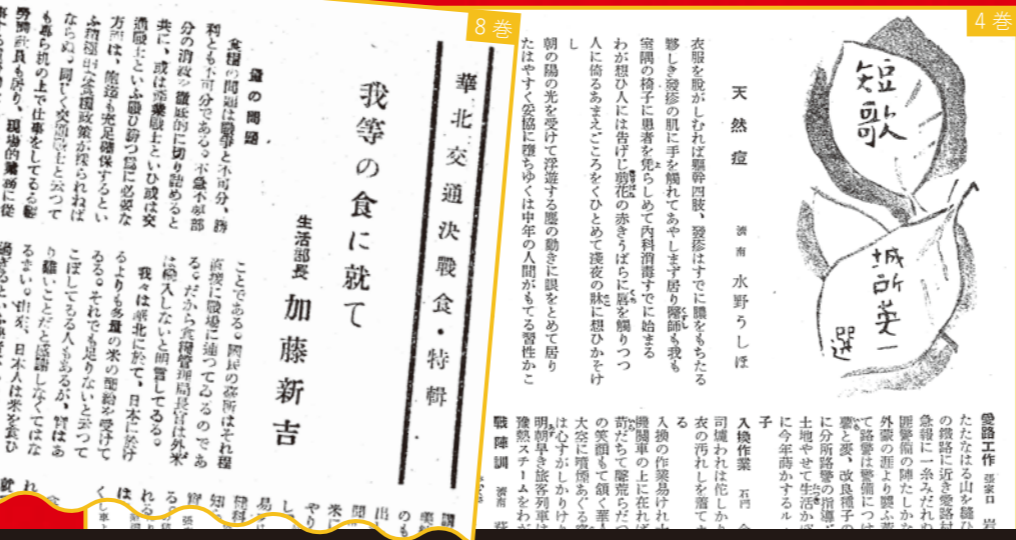
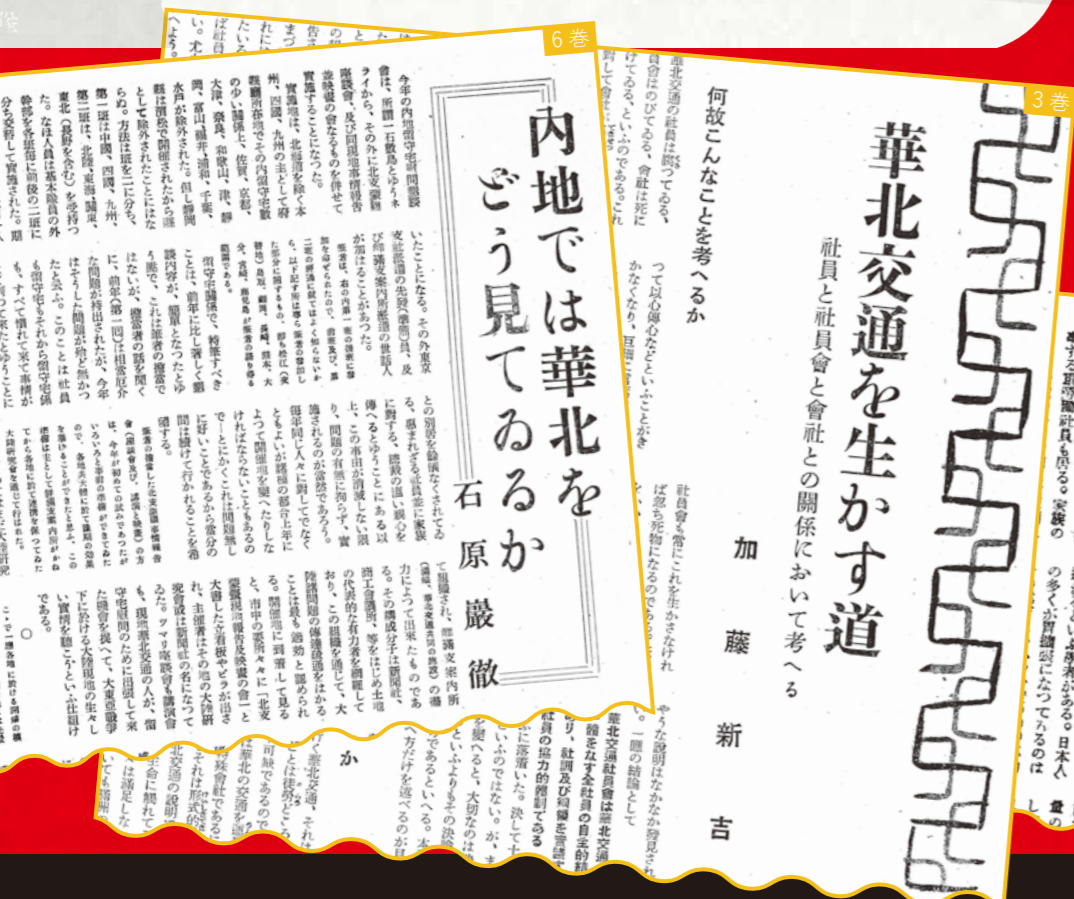
1898年広島県生。1920年拓殖大学卒業、外務省書記として天津総領事館、1928年満鉄入社。1937年「十月盟友八木沼丈夫の懇請もだがたく北京に赴き「北京宣撫班」長。1938年華北交通、1943年華北事情案内所長。『青泥』(のち『川柳大陸』)、『山査子』、『春聯』など満洲・北支の数多くの俳誌・柳誌を主宰・関係。

『興亜』の意義……刊行のことば

神谷 昌史

近年、華北交通が刊行していた弘報グラフ誌『北支』については注目が集まるようになってきている。その一方で、華北交通社員会刊行の『興亜』についてはこれまであまり注目されてこなかった。グラフ誌『北支』に比べると見た目の派手さに欠けているのも要因の一つであろうが、最も大きな理由は通読しにくさにあると思われる。『北支』は毎号の表紙に「現地編輯」と謳っていたが、印刷発行は日本であったため、今でも比較的手に入りやすい。それに比べ『興亜』は中国で発行され、基本的に中国在住の華北交通社員に配布されていた。発行部数は先にみたように数万部あったようだが、日本国内での流通は限られていた。

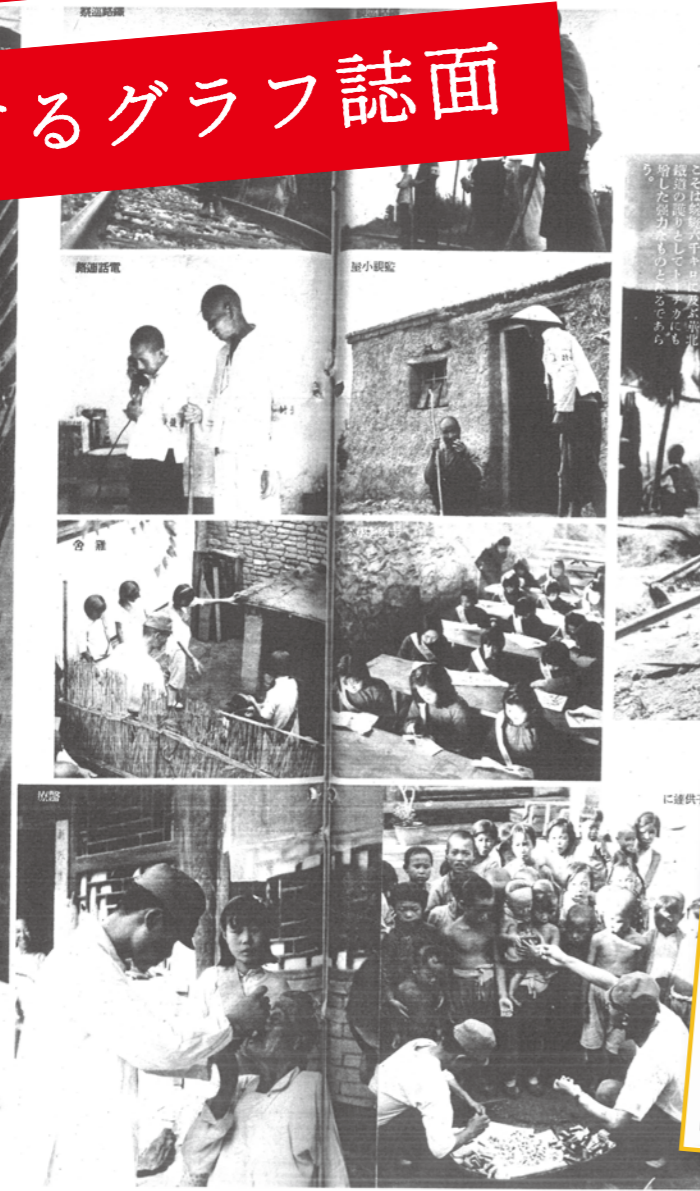
『興亜』誌面をみればわかるように、本誌は単なる社内報や社員会の会報的なものではない。「大真面目」な理想を掲げ、中国人との「協和」を目指し、「文化の動脈」(城所英一)を中国に張り巡らせようとしたこともまた事実で、現代の眼で見直すと様々な発見を得ることができる。今回の復刻はこれまで日本では見ることもできなかった第58号から第63号までを含んでおり、意義深いものといえるだろう〔本書解題(抄)〕。



「北支モダニズム」が

充満するグラフ誌面

満鉄と人的関係の深さは
誌面からも窺うことができる。



村護愛路

愛路護村の活動は、北支の発展に大きく貢献している。この活動を通じて、北支の民衆は、生活の向上と健康の増進を遂げている。また、北支の文化と教育の発展にも大きく貢献している。この活動は、北支の未来を明るく照らす光である。

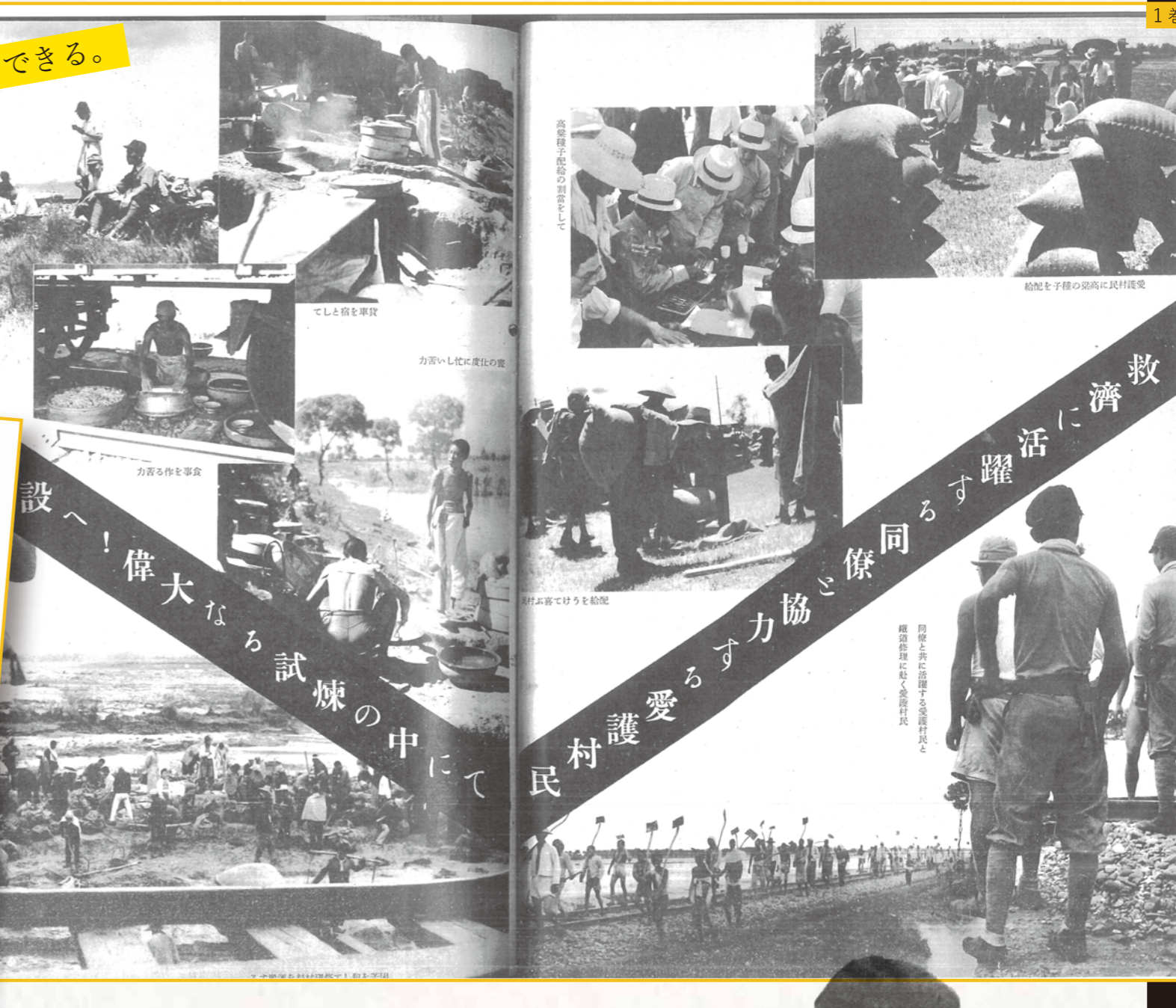
建設

建設現場の様子は、北支の発展の象徴である。多くの労働者が、汗を流して、北支の未来を築いている。この活動を通じて、北支のインフラが整備され、生活の利便性が向上している。この活動は、北支の未来を明るく照らす光である。

1 卷

満鉄北支交通員交生座談会

北支交通員交生座談会の様子。多くの参加者が、活発な議論を交わしている。この活動を通じて、北支の交通と人々の生活の向上が図られている。



偉大なる試煉の中で

建設現場の様子は、北支の発展の象徴である。多くの労働者が、汗を流して、北支の未来を築いている。この活動を通じて、北支のインフラが整備され、生活の利便性が向上している。この活動は、北支の未来を明るく照らす光である。

民村護愛るす力協と僚同るす躍活に濟救

同僚と共に活躍する愛路護民と
建設現場に赴く愛路護民

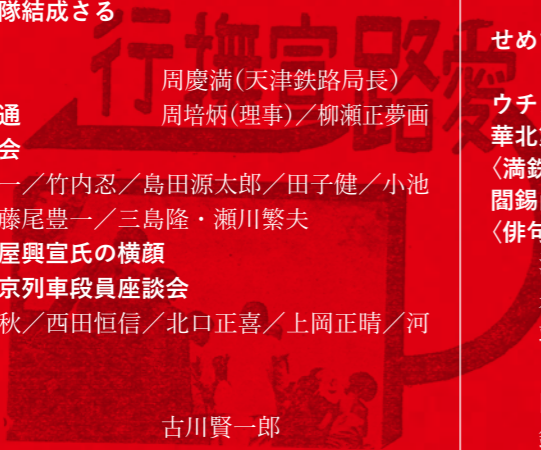
総目次 (抄録)

- 華北交通会社創立の意義 宇佐美寛爾(総裁)
- 愛路運動の尖兵 少年隊結成さる
- 消費生計座談会
- 人生観之我見 周慶満(天津鉄路局長)
- 北支・蒙疆の治安と交通 周培炳(理事)/柳瀬正夢画
- 北支経済事情研究座談会
押川一郎/古家誠一/竹内忍/島田源太郎/田子健/小池亮夫/服部隆造/藤尾豊一/三島隆/瀬川繁夫
- 「北支開発」の新総裁賀屋興宣氏の横顔
- 第一線に派遣された北京列車段員座談会
南部治郎/藤間文秋/西田恒信/北口正喜/上岡正晴/河野駒一/森藤進
- 消費生計座談会
- 竜の歌(詩) 古川賢一郎
- 日支の新年の句 石原沙人
- 〈満鉄社員会だより〉
- 華北及び華北交通の前途に関する考察 加藤新吉(常任理事)

- 〈会社創業一周年を祝って〉華北交通従業員諸氏における言葉(短歌) 長谷川如是閑
- せめて書かせて下さい一看護婦の手帳から一 丘村千恵(北京鉄路医院)
- ウチノオトウサン 佐藤成子(青島日本小学校一年)
- 華北第一劇団旗揚げ公演好評
- 〈満鉄に使した婦人使節に聴く〉
- 閻錫山について聞いた話 野地米次郎(太原鉄路局管財科)
- 〈俳句 選石原沙人〉
- 浦速雄(中央学院)/川島義雄(京鉄)/田崎善吉(石門警段)/永田重盛(順徳工段)/武井静風(昌樂警分)/武田瑞仙(馬頭站)/柳田豊田(永定門站)/半戸正視(豊台機段)/川内正光(石門機段)/大川清峰(臨汾機段)/野村作太郎(三鋪站)/前田方截(程家診療所)/大村睦雄(濟南電信所)/新井草夢(天鉄資)/秋元金也(介休列車段)/小沢隆山(京鉄学院)/金子蟹石(張鉄会計)/白石久詩子(西直門)

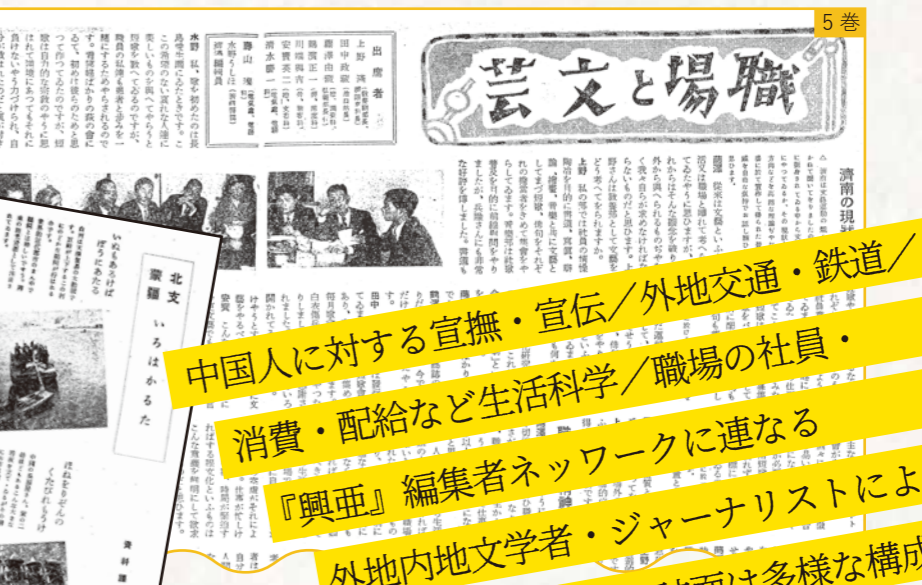
- 現地文化運動と我が青年社員(座談会)
(出席者) 有田孝之/川辺武彦/神田秀男/小池亮夫/中島荒登/引田春海/川西睦(編輯側)/佐々木秀光/小野沢亘/柄本文衛/井口一
- 〈華北交通新聞〉中国人同僚に光明一華語「機関車の構造と理論」京鉄、心血の努力実を結ぶ/建設線巡回慰問班を派遣/女子青年隊と中国人青年隊一七月一日から京鉄に誕生/マラリヤ全滅へ!/大陸鉄道愛護運動連絡会議/朝鮮郵船との連絡実現/愛路科長会議/日本語教授法講習会/鉄道旅客の感想と希望
- 青年に与ふ我が読書一総裁初め会社首脳部に訊く
宇佐美寛爾(総裁)/後藤悌次(副総裁)/山口十助(理事)/新井堯爾(理事)/孫瑞林(理事)/佐原憲次(理事)/大里甚三郎(主席監察)/陶尚銘(理事)/平田驥一郎(総務局長)/福川篤四郎(主計局長)/高橋定一(資材局長)/菅健次郎(自動車局長)/加藤仲二(工作局長)/加藤新吉(資業局長)/貫井輝四郎(水運局長)/郡新一郎(工務局・電気局長社員会会長)/山口三郎(警務局長)/鮑錫藩(参与)/佐藤哲雄(参与)/劉赫南(参与)/富永順太郎(参与)/關あ麟(参与)/久保田正次

- (参与)/金濤(参与)/今村康隆(参与)/池原義見(参与)/柳沼丈夫(参与)/崔春熙(参与)/柳ヶ瀬正哉(北京鉄路局長)/芳賀千代太(天津鉄路局副局長)/伊藤太郎(張家口鉄路局長)/下津春五郎(濟南鉄路局長)/山中良樹(開封鉄路局長)
- 起ち上る女子青年一婦人社員が遠慮なく抱負と希望を披瀝した座談会
柳ヶ瀬局長/江口本隊長/辻/東副本隊長/植村女子支隊長/佐久間/石野副支隊長/笹本節子(第一分隊長)/井村満江(第二分隊長)/原口ツヤ(第三分隊長)/朱芳(第五分隊長)/馬場イツ(第一分隊長第一班長)/高崎チヅ子(第一分隊長第二班長)/相川ナツヲ(第二分隊第一班長)/原口八千代(第二分隊第二班長)/畑田マサエ(第三分隊第一班長)/米盛静子(第三分隊第二班長)/王淑貞(第四分隊第一班長)/張志平(第四分隊第二班長)
- 職場と文芸
上野満(教養副部長、機関車科長)/田中政藏(澗口站长)/藤澤由藏(総、調査料、弘報部長代)/鶴濱正一(経、用度料)



著名な執筆者の記事や 短歌・俳句を介した華北の ネットワーク、文学記事を通してわかる 宣撫工作実態など『興亜』文芸記事には 読み解く面白さがある。

しかし、『興亜』最大の特徴は、既成作家よりも社員をはじめとする「華北」在住の若い世代の作品を載せることにあった。『興亜』編集陣は、「華北」という場所を捉え、現在進行している戦争をはじめとする新しい現実を把握し、それを文学的に形象化する。そうした困難だが重要な挑戦を若い書き手に期待したのではないだろうか。



中国人に対する宣撫・宣伝／外地交通・鉄道／消費・配給など生活科学／職場の社員・『興亜』編集者ネットワークに連なる外地内地文学者・ジャーナリストによる文化関係記事等、誌面は多様な構成、総合雑誌的な相貌をみせている。



- ／川端与吉(営、旅客科)／安寶英二(総、文書科)／清水慶一(電気所、電務科)／台山燦(電気所、電務科)／水野うしほ(済南医院)／渡邊編集員
- 〈座談会〉戦争と技術
郡新一郎(工務局及電気局局長社員会会長)／加藤伸二(工作局局長・教務部部長)／久保田正次(参与・工作局)／大田秀穂(監察)／秋山和夫(建設局・局参与・計画主幹制作部顧問部長)／竹原朝平(弘報部副部長)
- 大東亜戦下の北支・蒙疆の交通 宇佐美寛爾(総裁)
- 〈大陸の暮し方〉北京生活
高山千代女／伊東つね子／楠本美津枝／小笠錦／中島芳子／牧園きくえ／大島・渡邊於白菊寮
- 建設徐州を語る
野中勇雄(支会長)／三浦晴寛(庶務部長)／石川與曾吉(弘報部長)／水野博(教養部長)／丹野謙次郎(鍛錬部長)／高島恒三(鍛錬部副部長)／松尾龍吉(教養部副部長)／昆省一／今井／宇野／柄本(弘報部員)／大島(編輯員)
- アフガニスタン秘話 東史郎

- 戦時下の文化について—加田・立野両氏に訊く
加田哲二(慶応大学教授)／立野信之(作家)／三宅静一(東京地方会教養部)／中村恵(東京地方会教養部)／山村延雄(東京地方会教養部)／神田秀男(東京地方会教養部)
- 華北交通青年学校
〈壁小説〉見敵必殺 大原一尋
華北とコレラ 白石義夫
山西入村工作十家族の愛路指導者 諸橋龍泉
入村工作の体験を語る
内田藤吉(京鉄第一愛路課長)／真崎重行(京鉄第一愛路課員)／小森靖三(保定警務段孤莊營村)／太田重春(石森警務段柳辛莊村)／竹田孫四郎(普県警務段大陣莊村)／前田勇(邯鄲警務段固壩村)／豊田直人(密雲警務段糧營村)

